TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

特集
自ら学ぶ子どもたちを育てるために

巻頭エッセイ
新旧ごちゃまぜのことばかも? ..... 清水眞砂子 01

特集
自ら学ぶ姿勢を身につけるには ―自主学習の必要性とその方法を探る― ..... 竹内 理 02
英語学習における自主的な学びを育む工夫 ..... 和田憲明 06
学習意欲を喚起させる協同学習 ..... 稲岡章代 08
授業と家庭学習を結ぶ ..... 津田雅子 10

連載
英語教師のための基礎講座 Team-Teachingの基礎・基本4 ..... 渡邉時夫 12
評価クリニック スピーキング・テストをどう作る ..... 根岸雅史 14
授業レポート
楽しくて力のつく授業[1] ―評価計画とテスト― ..... 二宮正男 16
小学校英語Just Now
小学校英語活動における学級担任の役割 ..... 酒井英樹 19
単語の文化的意味 66 chair ..... 森住 衛 21
Essay
Writing Instruction ..... Ron Martin 22
英語教師のリソース
音声再生ソフトWindows Media® Player 10を活用しよう ..... 田中武夫 23
AROUND THE WORLD アフリカの手話の世界探訪[1] ..... 亀井伸孝 表紙裏
表紙写真について You Can Silent Text ..... 田嶋美砂子 表紙裏

Vol.8
SPRING 2007
SANSEIDO

AROUND THE WORLD 8

アフリカの手話の世界探訪[1]

ろう者の教会・ナイジェリア

亀井伸孝　Kamei Nobutaka　（関西学院大学）

国名「ナイジェリア」の手話表現

「みなさん，ともに祈りましょう。日本から来た私たちの友人，ドクター・カメイのために。彼の無事の帰国と，アフリカ諸国での研究の進展のために」

ナイジェリア最大の都市，ラゴスの教会。150人ものクリスチャンがいっせいに立ち上がり，日本から来た珍客である私のためにお祈りをしてくれた。ただし，この教会では声を使わない。ろう者の教会だからである。

ろう者とは，手話を話す耳の聞こえない人たちのことだ。言語学的研究の中で，手話が身ぶりでなく文法をそなえた言語であること，ろう者の間で世代間伝承されている自然言語であることなどが明らかになった。世界には少なくとも119種類の異なる手話言語が分布し，ろう者が地域により異なる文化をもつこともわかってきた。

私は1990年代の中頃から，西アフリカ諸国のろう者に関する文化人類学的調査をしている。このろう者の教会も，その中で訪れた場所の一つである。「ろう者のフィールドワークってどういうふうにするんですか？」とよく聞かれるが，ある地域のろう者たちが話している手話を学び，日常的なつきあいの中でろう者たちの慣習や価値観，歴史観などを学ぶのである。ふつうの文化人類学の調査とも似ているが，生活もインタビューも打ちあわせもすべて手話で行うという点が特色だろう。

さて，冒頭のろう者の教会。長い賛美歌がまだ続いている。これまでずいぶん多くの教会を訪れたが，ここのろう者の聖歌隊の歌は手話のリズムが完璧にそろっており，西アフリカ随一の美しさではないかと思う。近隣の都市イバダンのろう者の教会は，大だいこを使っていた。「どん，どん，どーん」という空気の振動はろう者たちの身体に響き，それが賛美歌のリズムの基調をなしている。聞こえる人が一人もいない空間で，手話でくり広げられている視覚文化の世界があり，しかもそれらは多様性にみちている。私は各地のろう者の教会を訪れ，「目で見る音楽」をビデオで撮り続けている。

ナイジェリア，ラゴスのろう者の教会（2006年，著者撮影）

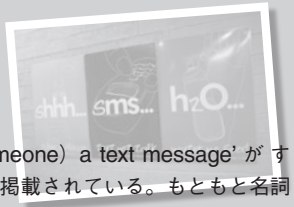
ナイジェリアには，ろう者の教官がろう教育専攻の学生たちに必修科目として手話を教える大学がある。このように，ろう教育で手話を使うことに否定的だった日本やヨーロッパとは異なる手話の歴史がアフリカにはあり，日本の私たちも学ぶことの多い大陸なのである。

本欄では3回にわたり，アフリカのろう者たちの視覚的なことばと文化の世界を探訪し，その魅力をご紹介したい。

表紙写真について

You Can Silent Text

田嶋 美砂子　Tajima Misako　（星美学園中学高等学校）



このポスターは，現在私が通うシドニー工科大学の図書館に掲示されているものである。左側からそれぞれ「私語の禁止」，「携帯電話での通話の禁止」，「水以外の飲食物の持ち込み禁止」を謳っている。中央のポスターにある‘sms’とは‘short message service’の略語である。つまり，図書館内では通話（talk）の代わりにショートメッセージ（text）を「静かに」送ることだけは許可されているというわけである。ちなみにこちらの携帯電話では，その名の通り160文字程度の短いメッセージしか送ることができない。そのため，“Thnx 4 ur msg.（Thanks for your message.）”のように，省略した綴り字が頻繁に使われる。

同じポスターの一番下には“On this floor you can silent text but you can’t talk on your phone.”と書かれてある。‘silent text’を一つのまとまった動詞として使用している点が興味深い。『オックスフォード新英英辞典』（2003年）には，動詞としての‘text’の用法である‘send（someone）a text message’がすでに掲載されている。もともと名詞であった‘email’が，現在では動詞としても大いに使われているのと同じ流れであろう。

‘Language in Social Context’という科目の講義で，「コンピュータの普及とともに名詞の動詞化が急速に進んだ」という話を聴いた。綴り字の省略や‘text’の新しい用法を考えると，コンピュータに加え，携帯電話もことばの変化に大きく関与しているといえるかもしれない。

高田英子撮影

巻頭エッセイ

新旧ごちゃまぜのことばかも？

清水眞砂子　Shimizu Masako

Opening Essay

エーゲ海を船で旅していた十数年前のある日のこと，甲板にいた私の耳に，ふいに美しい日本語がとびこんできた。はっとしてふり返ると，声の主は60代半ばかと見える女性で，傍らには連れらしい紳士がいた。まわりは白人だった。日本を離れて何年もたっているのだろう。すでに当の日本では聞かれなくなった少し昔の端正な日本語に私は胸を打たれていた。

留学生が時々日本人学生も使えないきっかりとして美しい日本語を口にすることがある。感心していると，次の瞬間，今度は崩れた今風の学生ことばがとび出してきて，おやおやと目を丸くしてしまう。母国に戻った卒業生と電話で話していたら，今に至るも女性ならば絶対に口にしないことばがとび出してきて，びっくりしたことがある。武田百合子は夫泰淳と竹内好とのロシア旅行記『犬が星見た』に，自分がずっとロシア語の男性ことばを使っていたことに気がついて，苦笑したことを書いている。いずれも他人事ではない。自分はどんな外国語（私の場合は英語）を話しているか。考えるたびにぞうっとしてくる。

私の英語の勉強は中学校の教科書でスタートした。田舎に育った私が英語を母語とする人に会ったのはようやく大学に入ってからである。それまでの英語の先生に英語圏に身をおいたことのある人はいなかった。そのことを残念に思う気持はないが，なにしろ読み中心の英語である。大学ではESSに入って，多少は生の英語にもふれるようになったが，内気な私はどうしても積極的にそうした場に出てゆけなかった。私は本ばかり読んでいた。英語を母語とする人々の中に何日も，時には何ヶ月も身をさらすことになったのは，ようやく四十代も半ばになってからのことである。それだけしっかりした英語をどこで身につけたのかと初めて会う人によく聞かれるが，それはたぶん私の聞きとる力との落差に驚いてのことだろう。それに，そうなのだ。これからが肝腎なこと。

一度英国の労働者階級の出だという30代初めの女性に注意されたことがある。「そのことばは間違いとはいえないけれど，少し古い」と。そのとき，そばにいた彼女の夫の方は黙っていた。彼は今なお働かずに暮らせる名家の出で，ほれぼれするような美しい英語を話す。私はといえば，彼女のことばにぎくっとして，それまで会ってきた留学生のこと，遠いヨーロッパで耳にした，日本ではもはや聞かれなくなったきれいな日本語を思い出した。自分はどんな英語を書き，どんな英語を話しているのか。19世紀から21世紀までの活字になった英語を読むことに傾いてきてしまった私は，明治，大正，昭和から平成まで含めた日本語をごちゃまぜにして話すという奇妙奇天烈なことを英語でやっているのではあるまいか。気がつけば，奇天烈もまた，もはや死語に近いことばである。

しみず　まさこ
1941年現北朝鮮生まれ。児童文学評論家・翻訳家。青山学院女子短期大学教授。1993年作家論集『子どもの本のまなざし』で日本児童文学者協会協会賞受賞。『ゲド戦記』全巻の訳業により2004年第41回日本翻訳文化賞受賞。最新刊に『そして，ねずみ女房は星を見た』がある。

特集 自ら学ぶ子どもたちを育てるために

自ら学ぶ姿勢を身につけるには

―自主学習の必要性とその方法を探る―

竹内　理
（関西大学）

1. 自主学習が成功の鍵

「教室外での自主的学習が成功の鍵」。かつて私は，新聞のコラムにこのようなタイトルで始まる英語学習に関する記事を書いたことがあります。要旨は「英語を本気で身につけるためには，教室の中での学習時間だけでは不十分。教室の外に目を向け，そこで自主的に何をするのか。その内容と方法が成否の決め手になる」というものでした。

現在のところ，多くの中学校では 3 年間に 290 時間程度しか英語を学習する時間は設定されていません。[1] 実際には，ここから学期ごとに何時間かが削られていきます。また，1 時間の授業の間ずっと英語の学習をしているわけではではありませんので，最終的には 230 ～ 240 時間程度しか英語の学習をしていない計算となります。[2] さて，この時間数は多いのか，少ないのか。先生方は，もう肌身にしみておわかりだと思いますが，答えはいうまでもなく「少ない」ということになります。それも相当に少ないという感じです。週 4 時間時代の推定実質時間数 280 時間と比べても，約 50 時間も少なくなります。カナダのイマージョン教育を調べた伊東（1997）の研究によると，学習対象のフランス語が「初級レベル」に到達するには，中等学校（中学と高校に相当）修了時までに累積授業時間数が 1,200 時間（推定実質時間数 960 時間）に達する必要があるといいます。日本では，高等学校での実質授業時間を追加しても，せいぜい累計 630 ～ 650 時間程度ですので，この 960 時間にはとても太刀打ちできません。[3] もちろん，カナダの状況はフランス語以外の科目もフランス語で教えるイマージョンですから，日本の状況と単純に比較することはできないでしょう。また，クラスサイズや学習目的，学習開始年齢，社会的環境なども違うことから，このような時間数の比較はあまり意味を持たないかもしれません。しかし上記のような例から，日本の英語授業時間数が英語習得の目的のためには少ないのだ，というイメージだけはつかんでいただけるものと思います。[4]

ではこのように時間数が少ないとなると，一体どうすればよいのでしょうか。答えは明白で，教室の外での学習を最大限に促進して，不足を補っていくしかないのです。ご存知のように，現状の授業時間数では，導入と少しの練習だけで，教室内はもう手一杯の状態です。加えてクラスには，いろいろなレベルや背景を持った生徒が混在しており，生徒一人ひとりの理解度も異なってきます。こうなると，定着を目指した反復練習や発展学習を授業時間内に行うことは，かなり困難になります。だからこそ，教室「外」での時間を何としてでも活用して，授業「内」での学習時間の不足を補っていかなければならないのです。ただ，教室の外での自主的な学習をいきなり生徒に期待しても，これは Asking for the Moon でしょう。なぜなら，学習者が自ら主体的に学んでいくという姿勢（とそのための技能）は，意図的に育てなければ身につくものではないからです。

2. メタ認知能力の大切さ

では，どうすれば自主学習の芽を少しでも育てることができるのでしょうか。まず考えられることは，「メタ認知」能力を生徒に身につけさせることです。メタ認知というと何か難しいことのように聞えますが，ようは「段取り」あるいは「計画・調整」のことを指します。それぞれの生徒に，1 週間，1 ヶ月，

1学期というような単位で英語学習の目標を立てさせ，目標達成のための学習方法を考えさせ，進捗状況を教師（＋クラスの仲間）と一緒にモニター・評価しながら改善を加えていくという，いわば「自己調整」の過程のことです。少し理想論をいえば，各学年を終える頃には，「英語を使って～ができるようになりたい」という「なりたい自分像」を設定させてから，それにあわせて計画を立てるという形態も考えられます。

多くの先生方は，「こうすれば単語を覚えられるよ」，「こうしたら発音がうまくなるぞ」という具合に，目前の学習課題を解決する方法（これを「認知ストラテジー」といいます）は，きちんと提示してこられたと思います。しかし，英語学習に限らず，学習をうまく進めている生徒を詳しく観察すると，目の前の学習課題を解決する能力はもちろんのこと，学習をある一定の目標に向かって組織していく力（つまり段取り力）が高いことがわかります。さらに，個々の課題を解決する認知ストラテジーは，この組織する力があって初めてその効果を発揮するようなのです。こうなってくると，段取り力というのは，きわめて大切な，より上位の能力ということになります。ところが残念なことに，この力はすべての生徒が自然に身につけているような，そんな能力ではないようです。根気よく教えて，しっかりと身につけさせてやらねばならない厄介な代物なのです。

このようにメタ認知の話をすると，よく先生方から，「理屈はわかるけれど，これは英語の授業でやることなのでしょうか」と問われることがあります。ただでさえ授業時間が少ない状況ですので，これはしごく当然の質問だと思います。しかし，英語の授業でやらないのであれば，どこでやればよいのでしょうか。どこにもそんな時間は見当たりません。でも一方で，生徒のメタ認知能力を育成して計画性を身につけてやらねば，英語を含む学力は伸びないのです。このジレンマを即座に解消する方法は，残念ながら私には思いつきません。現段階でいえることは，英語を含むすべての教科において，授業内・外の学習を利用して，段取り力の育成につながる意識的な取り組みを行うべきである，ということのみです。

ちなみに，メタ認知能力の改善を図るようにしていると，その過程で思わぬ副産物に出会う場合があります。生徒が自らの学習を振り返っていく中で，なぜ目標が達成されなかったのか，その原因が何にあったのかなど，彼らの置かれている問題や状況，さらには心情までも伝えてくることがあるのです。もちろん生徒が心を許すのは人間関係ができ上がっている場合のみですので，初めからこのような状況が生まれるとは思えません。しかし，メタ認知能力の育成過程は，どうやら単なる段取り力の養成に終わらない，比較的大きな可能性を秘めていることだけは間違いないようです。

3.「授業の円環」の考え方

生徒にメタ認知を求める以上，教師の側にもメタ認知的思考が求められるのはいうまでもないことでしょう。それでは，教師はどのようにメタ認知的思考を発揮すればよいのでしょうか。

筆者らの動機づけ方略の調査によると，中学では授業と直接つながらない，あるいは成績と関係しない学習は，いくら教室「内」で奨励しても，教室「外」での学習として成立しない傾向があることがわかっています。残念なことですが，生徒は英語をコミュニケーションや自己表現のツールとしてはとらえてくれません。成績や受験のような外発的な動機がないと，学習がなかなか前に進まないようです。これは日本のように外国語として英語を学んでいる環境では，ある程度仕方がないことかもしれません。そこで大切になるのが，授業の「内」と「外」での学習を有機的につなげ，コミュニケーションや自己表現の方向へと生徒を段階的に誘導し，さらに評価で補強していくような教師側の計画性（仕込み）なのです。

具体的な方法として「授業の円環」の考え方を導入することを，私はお薦めしています。授業の円環とは，実際の授業はもちろんのこと，予習や復習，評価も含めて一つの授業である，と位置づける考え方をさします（次頁図1参照）。この円環では，まず次の授業でやる内容を予習課題の中に仕込んでおきます。そして，この授業「外」での予備学習を利用して，授業「内」での活動を行っていきます。ま

た，授業ではできるだけ活動重視にしておき，説明などは要点のみに限定します。授業が終わると，再び授業「外」で，授業「内」の活動・説明などと関連した復習活動を行います。続いて，余裕のある生徒は発展学習を授業「外」で行い，さらに次回の予習もこなします。余裕がなければ，復習活動から次の時間の予習活動へ行っても構いません。このように円を描くようにして，授業内での活動と教室外の学習を関連づけて，その中に「学び」を成立させていくのが「授業の円環」の考え方です。この考え方で授業を設計すれば，生徒は授業「外」での学習へ参加せざるを得なくなります。ここへ評価の観点を導入し，コミュニケーションや自己表現を重要視するというメッセージを生徒に示せば，波及効果の面でも一定方向へ誘導することが可能となります。

広義の授業

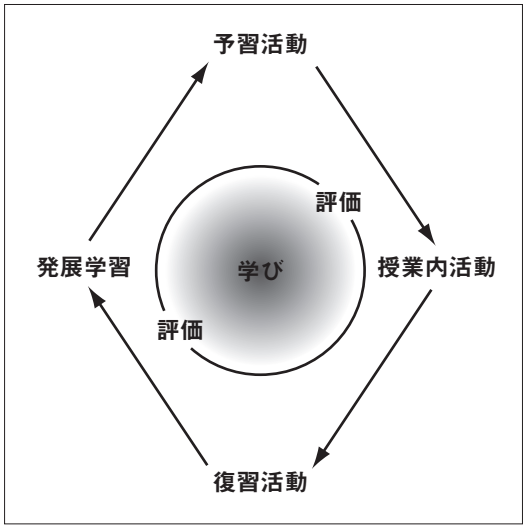


図1 「授業の円環」の概念図

もちろん，このような強制的な学習をよしとされない先生も多いかもしれません。しかし，授業「外」での学習も射程に入れて学習習慣を形成するためには，ある程度枠にはめる作業が最初はどうしても必要となります。ただし，この枠の中で，いつまでも強制的に学習させられているのではよくありません。この枠を越えて，自主的に学ぶように変えていくためには，次に「学ぶ喜び」を感じさせることが大切となります。

4. 成功体験の重要性

では，「学ぶ喜び」はどうやったら生じてくるのでしょうか。きわめて難しく一筋縄ではいかない問題なのですが，あえて単純化して答えると，どうやら成功体験を積み重ねてあげることが大切なようです。どんな小さなことでも，自分の努力が「誉められた」,「認められた」という感覚を味わった生徒は，同じ体験を求めて強制の枠を少しずつ越えてくるようです。そして，この成功体験をスムーズに味わわせるためには，教師による「手助け」が必要となります。例えば，ちょっとしたヒントや誘導，事前の仕込み，誉めことばなどが手助けとなり得ます。筆者らは，以前，教師が与える手助けとして，授業「内」の誉め・励ましことば（Verbal Encouragement：VE）の使用を調査したことがあります。結果は，「教師の VE は驚くほど単調で，手助けとしても的外れなものが多い」というものでした。つまり生徒たちが好む VE と先生方が使う VE の間には，かなりのギャップがあるのです。教室「内」の活動ですらこんなにギャップがあるのですから，教室「外」の学習を促進するためには，よほど戦略的に VE を出していかねばなりません。筆者の観察からいうと，教室「外」での学習における VE 使用で大切になるのは，「自分の英語学習のことを気にしてくれている人がいる」というメッセージ（例えば「最近，英語がんばってるね」,「小テストの準備はバッチリ？」など）を生徒個々人に向けて送ることだと思います。押しつけにならない程度に，しかし継続的に，「気にしているよ」という姿勢を VE で見せることが，教室「外」での学習継続に役立つのです。そして，このような手助けを与えつつも，それを徐々に減らしていく。こういった段階的な切替え戦略もまた重要なようです。

「手助け」と同様に大切なのは，「モデル」の提示です。学習を成功させるためには，成功への道筋を示したモデルが必要となります。[5] 飲み込みが早く，新しいことをいきなりやらされても，すぐにできてしまう生徒は確かにいます。しかし大多数の生徒たちはモデルを必要とするのです。そして面白いことに，モデルさえ示せば，比較的難しいことでも

彼らは意外とこなせてしまえるのです。ただ授業「外」の学習では，生徒の反応を見ながらモデルを出すことはできません。それゆえ，授業「内」で事前にモデルを出し，反応を見ながら調整をして，その後，授業「外」で活動をやらせるような周到な仕込みが大切となるのです。

ここまで手助けとモデルを活用して成功体験を味わわせることにより，強制の枠をこえて自主性が伸ばせる可能性があることを述べてきました。実はあともう一つ，重要な要素があります。それは「協同学習」の視点です。

5. 協同学習の視点

日本での学習を中心にして高度な英語力を身につけた「英語達人」たちの研究によると，彼らは「他人の存在」というものを学習の中で重要視していたことがわかります。学習とは孤独なものであり，一人きりでその孤独な学習を継続していくには，相当な意思の強さが必要となります。なかなか続くものではありません。そこで，達人たちですら，同じ程度の英語力をもったライバル的な人物や，自分より少し上だけれど努力すれば手の届きそうな英語力をもった他者を見つけ出し，互いに切磋琢磨し合っているのです。ライバルといっても敵愾心を持つ相手ではなく，一種の目標（憧れ）であり，学習方法を互いに教え合うような仲間と考えるとわかりやすいでしょう。達人たちは，こうやって他者を設定し，意見を交換することで，自分の学習の視点や方法を拡張し，なおかつ，ペースメーカー，あるいは動機づけ要因としても利用しているのです。上の例はかなり高度なレベルの話ですが，これを中学生の学びに置き換えるとすれば，一緒に学習する仲間を作り出すことが自主学習の継続のためには重要になる，ということを意味します。もちろん，必ずしも常に一緒に学ぶ必要はありませんが，教室「外」で定期的に学習を共にするグループを作り，お互いに進捗状況を確認しながら協同学習を行うことは，自主学習のペース作りにはとても有効なことのようです。

6. おわりに

自ら学ぶ姿勢の大切さとその方法について，ここまでいろいろと述べてきました。先生方の中には「これは理想論でしょう」，「現実にはそううまくいきませんよ」と感じられた方もおられることでしょう。厳しい現実に直面されている先生方の言であれば，謙虚に聞かねばなりません。ただ，「理想論だ」，「現実ではうまくいかない」といって何も行動をおこさなければ，いかなる変化も引き起こすことができません。確かに，ここまで述べたことは研究データに基づく理論にしかすぎません。実際には，さまざまな条件により，提案している方法がどの程度うまくいくのかは異なってくると思います。まだ不確定な要素が多いことも否めません。しかし，だからといって教室外での自主学習を促進する必要がない，ということにはならないのです。PISA 調査で報告されているような学力低下を目の当たりにしているのですから，我々はすぐにでも行動を起こす必要があります。そうしなければ，目前の生徒たちの学力向上がままならないのです。困難な作業ですが，この点も踏まえて，ぜひ生徒たちの自主性を育む試みに挑戦し，その成果を皆さんで共有してみてください。きっとそこから理論に肉付けがなされ，理想論が姿を消していくことでしょうから。

（注）

1. {(50 分× 3 回× 35 週× 3 年間）÷ 60} で必修時間数を計算し，これに選択英語を 3 年間で合計 35 単位時間学習したものと仮定して積算した。
2. 実質時間数は 1 単位時間の 80% が授業にあてられたものとして積算した。
3. 高等学校の時間数は，Oral Ⅰ，英語Ⅰ，英語Ⅱ，リーディング，ライティングの 17 単位を履修したと仮定し，1 単位時間あたり 80% を授業にあてたものとして積算した。
4. フィンランドでは高校卒業時までに 684 時間しか英語を学習していないにもかかわらず生徒たちが比較的高い英語力を身につけていることから，時間数が少ないことは必ずしも英語力が向上しない主要因にはならないという説もある（Ito, 2006）。
5. ここでいうモデルには，発音のモデルとなるような題材から問題解決の手順となる例示までを包括的に含む。

【参考文献】

伊東治巳（1997）.『カナダのバイリンガル教育』渓水社

Ito, H.（2006）. English language education at Finnish primary schools through teachers' perceptions and beliefs. *JACET Bulletin*, 43, 29-42.

Sugita, M. & Takeuchi, O.（2006）. Verbal encouragements for motivating EFL learners. *JACET Bulletin*, 43, 59-71.

竹内　理（2003）.『より良い外国語学習法を求めて』松柏社

特集 自ら学ぶ子どもたちを育てるために

英語学習における自主的な学びを育む工夫

和田憲明
（神戸大学発達科学部附属住吉中学校）

1. 中学生の学び方の指導

中学校では，教師に指示された通りに学習するだけでなく，自分で計画を立てて自主的に学習に取り組むことが求められる。生徒が自主的に学習を進めるためには，学び方の基礎を身につけていることが必要となる。

まず，教科横断的な学び方について触れたい。本校では，中学校入学時に，以下に挙げる，学習する上で必要な学び方の指導を行っている。

①各教科や総合的な学習の学び方
②ノートのとり方・時間の使い方
} 学び方の基礎に当たる

③新聞・インターネットの利用などの情報の集め方
④プレゼンテーションの仕方
⑤自由研究の進め方
} 学び方の発展に当たる

⑥新聞作り
⑦発表の仕方
} 総合的な学習の時間で指導する

⑧小集団学習・協同学習
⑨リーダー学習

①～⑤の項目は，学び方読本『How to Study 豊かな学びを育む』（神戸大学発達科学部附属住吉中学校著，明治図書）としてまとめ，生徒に持たせ活用させている。本書は，各教科の授業や学級の時間においても「学び方指南」となるもので，たびたび取り出して参照するようにしている。

⑧の小集団学習は本校の特徴的な学び方で，4人のグループで協力して学習するシステムである。リーダーを中心に話し合いや問題解決学習に取り組む。最近は，小集団学習に協同的な学びの要素を取り入れて学習を進めている。ほかに本校の特徴的な学び方としては⑨のリーダー学習が挙げられる。本校では，授業の最初の5分間は教科リーダー（教科係）が運営することになっている。教科リーダーは前時の学習内容から問題を作成し，事前に教師のアドバイスをもらってリーダー学習を進める。教科リーダーは，毎学期原則として本人の希望を優先して決めることになっており，その指導も毎学期始めに時間を確保して行っている。（英語の授業における小集団学習とリーダー学習については3で触れる。）

2. 英語の学び方の指導

本校英語科では，各学年の最初の1～2時間を使い，その学年の英語学習のガイダンスを行っている。特に1年生に対しては，英語を学習する目的や意義を一人ひとりに考えさせることから始めて，英語の学習内容，授業の流れ，ノートのとり方や家庭学習の仕方といった学び方を指導することにしている。

英語学習の目的としては，外国語を学ぶことで，外国の人々の生活や習慣，考え方などを知ることができること，自分の国のことばを見直し，大切にする心を養うことができること，を生徒に示すようにしているが，生徒それぞれの意義付けを大切にするようにしている。また，英語を学習する上で次の点を大切にするよう指導している。

①教師やCDなどの発音をまねること。恥ずかしがらずに大きな口ではっきりと話すこと。
②毎日繰り返し練習すること。
③学習したことを使って，自分で話したり書いたりすること。

その他，3年間の具体的な学習内容や言語活動，

実際の授業の流れ，家庭学習などについてのガイダンスを行っている。

家庭学習については，その重要性を教えるとともに，繰り返し練習することを大切にすることや，予習・復習の具体的な内容やそのポイントを指導している。復習のポイントとしては,「主題とねらい」(本校のカリキュラム）に沿って，その日の学習内容を確認すること，教科書本文を音読し暗唱練習をすること，ノートをわかりやすく整理することを挙げるようにしている。また，さらに余裕のある生徒に対しては，練習問題に取り組んだり，学習した文型を用いて自己表現をしたりするなど，発展的な学習を促している。

3. 学び方を生かした授業実践

次に，これらの学び方指導を生かした英語授業実践を紹介する。

(1) スピーチ発表

本校英語科では，各学年の学習レベルに応じて，自己紹介や Show & Tell などさまざまなスピーチ発表に取り組ませている。ここでも学び方指導で行っている話し方・聞き方の指導が大いに役立っている。生徒は，話し方・聞き方の練習で身につけたことを生かして，憶することなく英語のスピーチ発表に取り組んでいる。

(2) リーダー学習

他の教科と同じように英語の授業も生徒自身の運営によるリーダー学習で始まる。リーダー学習の内容としては，既習の文型や語句の復習が多いが，辞書を引いて競争して単語を調べさせたり，友だちに英語で自己紹介をさせたりといった活動的なものや，Listening Test やクイズ，ゲームといったものまでさまざまな内容が見られる。

リーダー学習の利点としては，生徒が主体となり授業を開始し進めることである。また, 教科リーダーはリーダー学習の問題を作るために授業に真剣に取り組むようになる。また同じクラスメートが進める授業に，生徒は意欲的に取り組むものである。

(3) 学習成果をまとめる

学び方指導の中で，生徒は学習成果をまとめるいくつかの方法について学習するが，これらは実際の学校生活や行事のまとめとして使われる。英語授業の中でもこれらの活動を取り入れることにしている。例えば，3 年生では日常生活や行事のまとめとして英字新聞作りに取り組ませている。5 月に行われる修学旅行の成果や体育祭や文化祭といった生徒にとって思い出に残る行事の振り返りを新聞としてまとめさせている。いずれの場合でも，生徒は自分たちの体験した感動を英語を通して一生懸命伝えようとする。また，作成した新聞の内容をニュース風に発表する活動も行っている。映像や画像を効果的に活用して, 生徒はニュースを仕上げていた。ニュース発表の仕方も学び方学習の中で行っている。

(4) 小集団学習

最後に，本校の特徴的な学習である小集団学習を取り入れた実践を取り上げる。

英語科としては，他の教科のように話し合いの形態として小集団学習を活用する場面は多くはないが，問題解決学習として利用する場面は多い。例えば，1 年生であれば，単元「世界の国や町を紹介する」において，小集団で選んだ世界の国や町を紹介する活動に取り組んでいる。2 年生では，単元「英語の物語を読む」において，小集団で協力して選択した読み物を読んでその内容を紹介する活動を行っている。また自分たちで課題を選択して取り組むコース学習「地球へのアピール」では，小集団で協力して地球を守るためのメッセージ作りに取り組むことになっている。これらの活動においては，全て学び方学習で経験している小集団学習や協同学習のルールがその基礎となって生きている。

また，問題解決学習以外の授業場面でも，小集団学習を生かせる場面がある。小集団で教科書本文の音読のチェックをさせたり，テスト直しの教え合い学習をさせたりすることも可能である。また小集団で役割を分担して英語劇を演じさせたり，小集団内でスピーチ発表を行わせることによって，同時に多くの生徒を活動に参加させることができる。

生徒は，自ら学ぶ方法を身につければ，教師が想像する以上の力を発揮するものである。生徒の可能性を信じて，生徒に活動を委ねる部分をできるだけ多く授業に取り入れていきたい。

特集 自ら学ぶ子どもたちを育てるために

学習意欲を喚起させる協同学習

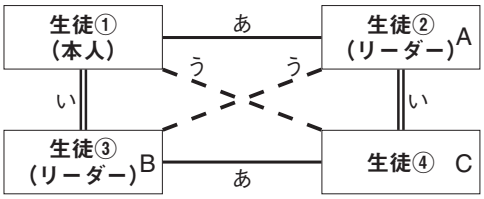
稲岡章代
（兵庫県姫路市立豊富中学校）

英語学習の目標として「コミュニケーション能力の育成」が掲げられている。コミュニケーションはお互いを大切に思うことで成立する。日々の授業では，生徒どうしがより親しくなり，学級全体がより学習意欲を向上させることができるコミュニケーション活動を重ねていきたいものである。個人とともに集団を育てることによって，より多くの生徒の「学ぶ意識」「学びたいという意欲」を高めさせることができる。そこで，本稿では input—intake—output という自然な流れを持ち，形態としてペアやグループ活動を踏まえ，さらにクラス全体へと展開する指導実践例を中学校 1 年生の教材を使って紹介する。

1. 協同学習の体制作り

一人の生徒はそれぞれにパートナー A，パートナー B，パートナー C を持っている。

パートナー A（となりの生徒）— 基本ペア
パートナー B（前後の生徒）
パートナー C（斜めの生徒）



上図の生徒①にとってパートナー A は生徒②，パートナー B は生徒③，パートナー C は生徒④となる。この座席は，生徒と担任の先生とともに決める。「ペア・あ」，「ペア・い」は主にリーダーがリードしながら教え合う関係，「ペア・う」はだいたい対等の表現力を持った生徒どうしになっている。「ペア・う」はほぼ同等の実力を持った相手であるため，互いに「勝負心」を発揮したり，「隠れたリーダー性」を見せるチャンスとなる。ペア活動と並行して取り組ませるグループ活動では，生徒①②③④がグループメンバーとなって活動する。その場合，1 人の生徒にとって他の 3 人がサポーターとなり，協力体勢を取りながら力を出し合う。

ペアあ・い・うで会話やチャットをさせる場合，タイトルは同じでも相手の理解度や展開方法によってあいづちや返答に違いがあり，それぞれに面白さが出る。このようにペアあ・い・うの 3 段階システムを持つことにより，クラス内のサポート関係を広げることができ，互いに学習意欲や能力を高め合うことができる。このようにして，ペアからグループ，さらにクラス全体が「誰とでも心を開いて語り合える仲間」へと育つことを目指す。本来のコミュニケーションの目的である「互いに分かり合う」「情報を知らせる」「親しくなる」ということを「教室」というコミュニティの中で実践していく。

2. 協同学習を利用したスピーチ指導

中 1 の 1 学期末，生徒は be 動詞に加え，have，play，like，eat，know，want などの一般動詞の現在形を学んだ。そこで 9 月に 1 学期の復習として，自作のポスターを使ったスピーチショー「Speech 'I'」（自己紹介）に取り組ませた。ポスターは夏休みを利用して作成させた。以下に示すように模造紙½の真ん中に自分の顔を描き，その周りに自己表現に必要な写真を雑誌などから切り抜いて貼らせた。ポスターを効果的に利用することでスピーチを暗記し発表するという緊張感を和らげさせることができた。

Hello, everyone!

My name is Kana. I'm from Himeji. This is Himeji Castle. It is beautiful. I like it.

I'm in the tennis club. I play tennis every day. I'm a good player.

I have a dog. The dog's name is Sharan. It is brown. It is cute. I don't have a cat. I don't like cats very much. I like curry. It is delicious.

I like baseball. It's fun. I'm a Tigers fan. I like Mr Kanemoto. He is cool. I don't like *natto*. It is not delicious to me, but I sometimes eat it.

I want a new bike. My bike is old. I like music, so I listen to music every day. I like B'z very much. They are cool. I have some CDs. I want a new CD.

Thank you.

3. 指導手順

①個人指導

支援の必要な生徒についてはポスター作りから援助し，ポスターを見ながらオーラルで練習を重ねた。

②ペア活動

ペア活動シートを利用して，まずパートナーA，B，Cと，さらにABC以外の生徒と組ませて練習を重ねさせた。聞き手は話し手のシートの各項目に記入し，相互評価とアドバイスをさせ，スピーチの量と質を高めさせた。話し手としてだけでなく，聞き手としても「よいスピーチ」とはどういうものであるかを追求し，発見する機会とした。

ペア活動シート

Let's practice in pairs and groups!
Speech 'I' のポスターを使って，自己最高記録にチャレンジ！

	文の数	友だちからのアドバイス（内容・表情・声量・その他）
1		
2		
3		

本番に向けての工夫

③グループ活動

グループになって順にスピーチを行い，ペア活動と同じく相互評価とアドバイスをさせた。その際，各々のグループを前後の黒板や運び込んだ白板の前に机ごと移動させ，一人ずつ順にポスターを貼らせ，本番同様に発表の練習をさせた。特に聞く人を見ながら話すことを意識させた。スピーチは練習の度に内容豊かなものとなっていった。

④クラス全体でスピーチショー

本番のスピーチショーでは全員が明瞭な声で大いに楽しそうに発表し，平均スピーチ文は30文であった。生徒にとって「みんなの前で自分について語る」というダイナミックなチャレンジであったが，それだけに何としても全員に達成感を持たせたいという思いで指導に取り組んだ。スピーチショーでは次の評価シートを使い，自己評価と相互評価を行った。

スピーチショー評価シート

Speech Show〈Speech 'I'〉
1-（　）No.（　）Name＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
You are a judge! Please listen to your classmates and evaluate their speeches.

〈Today's Target〉
□明瞭な声　□表現力　□英語のすらすら度

3項目中，3項目が○＝A　2項目が○＝B　1項目以下が○＝C　で総合評価をします

Name	声の明瞭さ	表現力	すらすら度	判定
1				A B C
2				
3				

〈Your Comments on the Speech Show〉

なお，スピーチは最終的に各自のCreative Writingノートにポスターの写真とともにまとめられ，中1時代の一番の思い出のページとなって残された。

「自ら学ぶ生徒の育成」は，コミュニケーションの発信者としての，また受信者としての興味関心を引き出すことが鍵となる。クラス全員で取り組む協同学習を有意義に活用したいものである。

特集 自ら学ぶ子どもたちを育てるために

授業と家庭学習を結ぶ

津田雅子
（東京都練馬区立大泉中学校）

1. はじめに

昨年度から職場では，授業改善のための研修が熱心に行われている。この動きは東京都や練馬区において行われ始めた学力テストの結果を見ての動きと連動している。生徒の学力向上を図るには，教師の授業力を高めていく必要があるとの視点に立って実施されていると思われる。

しかし，授業の改善が十分に行われたとしても，生徒の学力を向上させるのは容易なことではない。なぜならば，授業で獲得した力を定着させるためにはさらに時間をかけた学習の積み上げが必要になってくるからだ。週3時間の授業から学習の連続性をいかにして作り出していくか。ここでは日々の実践の中から「授業と家庭学習を結ぶ」取り組みについて紹介する。

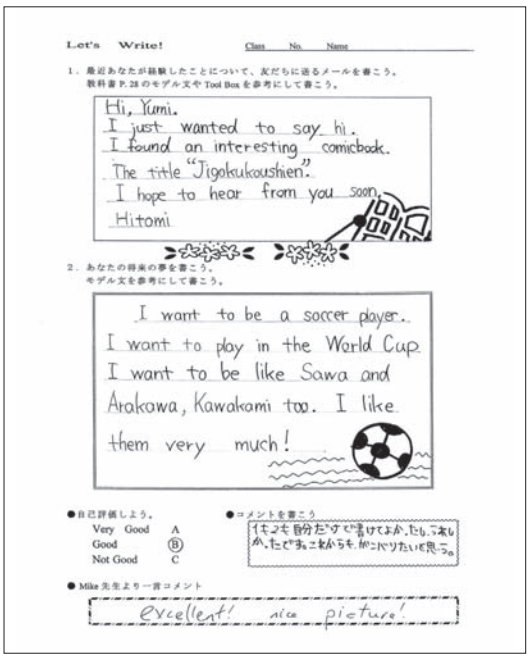
2. 授業のフォローアップ

学習の定着を図るために，我々はどのような試みをしていけばよいのだろうか。前述したように授業を終え，そのあとのフォローが全くないとすると，生徒がその日学習したことを次の時間までしっかり覚えておくことは難しい。input から intake，そして output へと指導を進めていきたいと考えていても，intake がうまくいかず，output へは大変遠い道のりとなってしまう。週3時間の体制の中では，授業と授業の間に時間的な断絶ができてしまうので，家庭学習を通して生徒に学習した内容をフォローアップさせる機会を与える必要がある。そこでこれまでの経験から次のような取り組みを実践している。

(1) ワークシートを通して再度学習の確認を

授業と家庭学習を結ぶものとして，ワークシートの取り組みがある。ライティングの指導の際，教科書での活動を終えたあと，ワークシートを配布し，学習したことを再度書かせ提出させるのである。最近の教科書は，教科書の中に書くためのスペースがあるので，簡単な内容に関しては教科書に直接書かせているが，それだけで終了とせず，ワークシートを与え，再び書かせ提出させている。このことは，生徒に自分の書いた文を再度振り返らせ，間違った箇所への気づき，訂正，さらに，fluent な文を書くチャンスを与えることにもつながっている。50分という限られた授業時間内ではゆとりある指導はできない。この取り組みは学習の定着を図る上で大変有効である。

「ワークシート」の例


Let's Write!　Class　No.　Name

1．最近あなたが経験したことについて、友だちに送るメールを書こう。
教科書P.28のモデル文やTool Boxを参考にして書こう。

Hi, Yumi.
I just wanted to say hi.
I found an interesting comicbook.
The title "Jigokukaoshien."
I hope to hear from you soon.
Hitomi

2．あなたの将来の夢を書こう。
モデル文を参考にして書こう。

I want to be a soccer player.
I want to play in the World Cup.
I want to be like Sawa and Arakawa, Kawakami too. I like them very much!

●自己評価しよう。
Very Good　A
Good　B
Not Good　C

●コメントを書こう
イキンも自分だけで書けてよかったね。こわしかったけどあこえからも、がんばりたいと思う。

● Mike先生より一言コメント
excellent! nice picture!

(2) ワークブックの教師チェックを

前述したワークシートはライティングを中心としたものだが，普段の授業の復習としては，新出単語，基本文の練習，リーディングの練習などが考えられる。リーディングについては，授業内でかなり力を入れて練習し，家庭でも継続的に練習するように指導しているが，多くの生徒が声を出して読むことに抵抗を感じずに取り組んでいるようで，うれしく思っている。

単語を含め，文法事項の復習としては市販のワークブックを活用している。日々の学習を定着させるためのワークシートを作成する時間がないこと，また，市販のワークブックは文法事項の練習問題が簡単なものから難しい問題までバランスよく盛り込まれていること，さらに，内容理解に関わる問題，real communication となる質問などバラエティーに富んだ練習ができるようになっていることなどから日々活用している。生徒は問題をやり終えたあとに自分で答え合わせを行い，間違ったところは赤で訂正し，提出する。以前は定期考査終了後に提出させ，チェックを行っていたが，チェック回数をできるだけ多くし，生徒が学習に少しずつ取り組むことができるように各レッスン終了時に毎回チェックするようにしている。

3. 予習

現在の２年生は，１年２学期後半から予習の取り組みを始めた。１年生の前半は，まずはその日学習した内容をしっかりと復習することが大切だ。しかし，２学期後半から復習をすることが定着し，学習への関心や意欲も深まることから，「予習ノート」を作らせている。

「予習ノート」の内容は，

①単語コーナーを作り，調べた意味を書く。

②教科書本文を書き写し，わかる範囲でその意味を書く。

③残ったスペースに単語と基本文を最低５回ずつ書く。

といった簡単な形式だ。意欲的に取り組んでいる生徒は授業前にスタンプをもらいに来る。中には，レッスンの全てをやり終えて持って来る生徒もいる。そうした生徒のノートからは，一生懸命に学習した足跡が見える。しかし，そういう生徒ばかりでないのは当然である。予習ノートとはならず，復習ノートとなってしまう生徒もいる。しかし，日々の学習をそのままにして，次のセクション，レッスンに進んでいくことは避けたいので，復習ノートとなっても継続して取り組ませるようにしている。各レッスン終了時に，ワークブックとともに予習ノートのチェックを行う。事前に予習ノートを提出し，すでにスタンプをもらっている生徒，チェック時に初めてスタンプをもらう生徒，授業中にも取り組んでいいことにしているので，必死になって取り組む生徒など，色々な状況がある。提出者数を見てあまり状況がよくない場合は，次回まで提出可能とし，多くの生徒が合格点を獲得できるように努力している。

この「予習ノート」のスタンプの数は学期ごとに集計し，「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の一つとして成績に入れている。生徒の中には成績をつけられるから提出するという生徒もいる。本来のノートの取り組みの意義を理解せずに，ただスタンプ獲得のためにノート作りを行っている生徒のノートは，字が乱雑だったり，工夫のないノートに終わっており，取り組み自体が意味のないものになっている。この点については，授業内で何度か指導をしているが，教科以外の領域も使って与えられた課題に向かって，意欲的に真面目に取り組む姿勢を育てていくことが必要であろう。

また，今後は授業で学習した基本文を使って，自己表現をさせるコーナーをノートに作っていくことを計画している。

4. おわりに

生徒たちは，放課後の部活動，習い事，塾など毎日忙しく活動している。しかし，前述したように，授業だけで生徒の学力を伸ばすことはできない。授業と家庭学習を結ぶ何らかの取り組みが必要である。ここに挙げた事柄は特に物珍しいものではないが，教師自体が意欲的に，継続的に取り組んでいくことが生徒の意識を変えていくことにつながると信じ，今後も継続していきたいと思う。

英語教師のための
基礎講座

Team-Teachingの基礎・基本4

Team-Teaching with a One-Shot ALT

渡邉時夫　Watanabe Tokio
（清泉女学院大学）

1 はじめに

従来 One-Shot は，教員も ALT も比較的軽視する傾向があるのではないか，と思う。しかし，担当教員が One-Shot について，その活用法と真剣に取り組んでいる場合には，相当の効果を上げているのも事実である。

今回は筆者の見聞きした経験の中から具体例を挙げながら，One-Shot を効果的にするための考え方を述べてみたい。

2 何を期待すべきか―ALT との合意の必要性

One-Shot では，生徒と ALT が初めて出会うことが普通であるため，「簡単な自己紹介とゲーム」をやって終わり，という内容が多いようである。自己紹介の内容にもよるが，今後はもっと日常の授業と噛み合うような内容にしたいものである。

そこで，ALT が来校する前にまず，次の①～⑤をしっかりと伝えてほしい。

①現在，教科書のどのレッスンを教えているかを伝えること。（生徒の英語のレベルを的確につかんでもらう）

②できれば国際理解（例えば，ALT の出身国の生活や文化の理解）につながるようなテーマを選び，生徒に英語でする説明を理解してもらえるように準備をしてくること。（絵，写真，ビデオ，スライドなどにも配慮）

③生徒が ALT の英語を聞いて概要が理解できるように，英語の説明を工夫してくること。生徒にとって「Authentic English を聞いて理解する」貴重な 1 時間であることを理解してほしいこと。

④発音の矯正や練習などは重視していないこと。

⑤生徒にも多少発言の機会を与えること。ただし，生徒の発話は one-word utterance のよう simple なものでもよいこと。

One-Shot ALT の場合は，複数の学校を訪問するのが普通であるため，上記の方針に沿った授業を重ねることによって，授業内容がかなり改善されていくであろう。

3 内容についての具体例

(1) 教科書のテーマに関係した内容

生徒の英語力の実態を理解してもらうために，生徒が現在勉強している Lesson を ALT に知らせ，その課と関連したテーマを選んで話していただくよう事前に打ち合わせることが望ましい。

例えば，*NEW CROWN*, BOOK 2 LESSON 5 “Speech—‘My Dream’” では，次のような扱いを考えてみた。

ALT には，以下のような内容を伝える。

①教科書では，久美が I want to be a tree doctor. という speech をする。生徒に speech の内容を一層理解させるために，私（教員）も子ども時代に tree doctor になりたかった，という設定で，speech（原稿は省略）をした。

②あなたには，私の作品の例をまねて，I want to be an animal doctor. というタイトルで speech の原稿を作ってほしい。

③ALT には，speech するだけでなく，speech 原稿を印刷して，生徒に読ませるようにお願いしたい。聞いて理解したことを文字で確認すると生徒の英語理解が深まるだろう。

④ ALT は，例えば，“I want to be an animal doctor. Why? First, many people in my country keep pets. Their pets often become sick.” といった出だしで speech をしてくれるだろう。英語の

理解とともに，ALT の出身国の様子もわかれば期待通りの授業となる。

(2) 生きた文化を体現する授業

(a) Scotland 出身の ALT

Scotland 出身の ALT の授業は次のように進んでいた。ALT は，子どもの頃よく遊んだゲームを紹介したあと，JTE（女性）に次のように質問した。

ALT: When you were about ten years old, what did you play?

JTE: I played *otedama*. (She took some *otedama* out of her bag.)

ALT: Oh, juggling. Yes, I played juggling too.

JTE: You call *otedama* juggling in your country? I thought *otedama* is a Japanese game. Big surprise, isn't it?

生徒も，驚いて，ALT のことばを疑った。

Hands up if you think I can play with three.

ALT が，3 個のお手玉を上手に使って遊ぶことなど，考えられなかったので，誰も手をあげなかった。しかし，ALT は，見事な技を見せた。3 つどころか，5 つを使った技も見事だった。意外な事実を目の当たりに知った生徒は興奮気味だった。さらに，ALT は，日本のお手玉の中身は，小豆だけれど，Scotland では，羊の骨を使っていることなどの説明に発展していった。ALT の最後のことばは，次の通りだった。

（haggis, tartan などの写真を見せながら）You see, sheep is so important in our country that sheep is used for food, clothes, bag, hats, shoes and everything, even for children's toys.

JTE との事前の打ち合わせにより，テーマを確定し，双方が実物や絵などの教材を用意して作り上げた見事な授業である。生徒は，たっぷりと英語のインプットを浴び，しかも，補助教材やジェスチャーなどの助けを借りて十分に理解でき，Scotland について新たな事実を学ぶことができた。

なお，ALT が "Something about life in Scotland" という短くまとめた英語の文章を最後に配布できたら最高だろう。

(b) Hawaii 出身の ALT の場合

1 枚の pineapple 畑(plantation)の絵，pineapple の模型と実物などを教室に持ち込み，pineapple の成長過程の説明があった。果実が熟すると再び茎を出すこと，その上に植え付けしてから 15 ～ 20 ヶ月すると開花し，熟するのにさらに 5 ～ 6 か月要することなどを学んだ。ほとんどすべての生徒にとって新情報だった。たった 1 日の出会いだが，英語を聞いてわかる授業の大切さをわきまえた 2 人が，事前の打ち合わせをした上での T-T は，効果が実感できる授業だった。

(3) 生徒に発言の機会を

生徒にとって，初対面の ALT と話してみたい，自分の英語がどの程度通じるか知りたい，という気持ちが強い。この願いを聞き入れてやりたい。しかし，前述の通り，One-Shot の主たる狙いは，「英語を聞いてわかる」ことを重視すべきなので，生徒の発言は一定時間に限るよう計画すべきである。

また，発言しやすいように，事前に発言のための課題を与えておくとよい。例えば，日本人の生活について，ALT の short critical comment を事前に渡し，質問や意見を述べるように課題を出しておく。

(例) My name is John. I am going to visit your class next Monday. This is my comment about your life. If you have any questions or opinions about my ideas, please ask me when we meet.

1. You don't go to school on Saturday. I hear most students spend Saturday simply watching TV and do nothing else. So I believe your government should change their policy and let students go to school on Saturday.
2. You learn too many school subjects. You learn seven or eight subjects. American students study only four or five.（以降略）

4 おわりに

基本的な考え方を ALT と share し，ALT が上記のような具体的な活動内容について理解していれば，T-T は，必ず効果を生むものと思われる。皆様の貴重な実践例をお寄せ下さい。

Dr Negishi's Assessment Clinic
評価クリニック

スピーキング・テストをどう作る

根岸 雅史 Negishi Masashi
（東京外国語大学）

1. レパートリーの少ないスピーキング・テスト

今回は，スピーキング・テストの作成・実施について取り上げる。テストは，教師が学習者であったときに受けてきたものを模倣して作っていることが多く，必ずしもテスト理論の講義や作成のトレーニングを受けて作っているわけではない。ところが，スピーキング・テストの場合特にやっかいなのは，他の技能に比して，教師自身があまりスピーキング・テストを受けた経験がないということである。

そこで本稿では，いくつかのスピーキング・テストを紹介し，その根底にあるスピーキング力の考え方について述べてみたい。

2. スピーキング力をどう測るか

スピーキングという技能は，発表技能である。このことは，この技能が外から観察可能だということを意味する。それゆえ，その能力を測ることは，一見単純なことのように思われる。話す能力を測りたいのだから，話させればいい。確かにそうなのだが，何を話させるのか，どのように話させるのか，誰と話させるのかなど，様々な要素があり，考えればきりがない。

ここでは，スピーキング力の測り方を大きく2つに分けてみる。1つは，実際のコミュニケーション場面で行うであろうタスクをテストで生徒に課すものである。もう1つは，様々なスピーキング活動に共通する潜在能力を見ようとするものである。

2. 1. 実際のコミュニケーション場面に基づくテスト

スピーキング・テストにおいて，実際のコミュニケーション場面に基づくテストといった場合，本人が「自分のまま」で受けられるテストと，「誰かの役割」を演じたり「どこかの場所」を想定したりして受けなければならないテストとがある。多くの場合，インタビュー・テストでは，面接官から尋ねられた自分のことに関して，自分のまま（誰か別人の役割を演じることなく）答えることになる。「名前」や「住んでいるところ」，「好きなスポーツ」などを尋ねられたりしている。これらの質問には，すべて「自分についての事実」を答えることになると思われるが，そのクラスの担当教師が面接官をする場合は，教師の側がすでに答えを知ってしまっている質問（display question）になってしまい，本当の意味での情報のやりとりが行われていないことがあるので，注意が必要である。

同じインタビューでも，2つの異なる絵を使って，生徒にそのうちの1つを描写させ，相違点を探させるという方法もある。この場合，教師の持っている絵と生徒の持っている絵は異なっているので，そこに information gap が存在しており，コミュニケーションの必然性が生じることになる。また，複数の連続した絵を用意すれば，ストーリー・テリングとなる。1枚の絵を描写するのと，複数の連続した絵を描写するのでは，測れる能力が異なってくるので，本来どのような能力を測ろうとしていたのかの確認が必要である。

教師によるインタビュー・テストでは，教師だけが質問を行うことになってしまうが，生徒どうし（2人または3人）による形も可能である。生徒どうしであれば，生徒も質問役に回ることができる。

2. 2. 虚構の世界を使って：ロール・プレイ

これに対して，ロール・プレイという手法がある。これは，ある場面を設定して，その場面における役割を受験者に与え，そこでの課題を遂行させるとい

うものだ。例えば，生徒には次のようなロール・プレイング・カードが渡される。この場合，教師は店員の役をやることになる。

ロール・プレイング・カード（例）
　あなたは今，買い物をしようとしています。熊の置物が気に入ったので，値段を聞いて，3,000 円以下だったら買いましょう。

こうしたタスクでは，決められたシナリオがあるわけではないので，課題遂行のためにどのように話すかを受験者が自分で考えていかなければならない。既成の会話を 2 人の生徒に割り振って暗唱させるようなものもロール・プレイと呼ぶことがあるが，それは厳密には本来のロール・プレイではない。

SST（Standard Speaking Test）*などにおけるロール・プレイは即興でやることになるが，中学生を対象とするテストでは，授業でやったことが身についていれば遂行可能なものにすべきだろう。また，生徒に課すタスクも現実の生活で彼らがやっていそうなタスク（必ずしも「英語」でやっていなくてもよいだろう）が望ましい。

2. 3. スピーキングの根底にある能力の測定

これまでに述べたようなスピーキング･テストは，現実の生活で見ることのできるパフォーマンスを再現しようとしている。これに対して，このような無数のパフォーマンス事例を追求することをせずに，あらゆるパフォーマンスの根底にある能力を測ろうとする方法もある。これらの中には，文復唱テスト（sentence repetition test）や口頭並べ替えテストなどがある。以下，それぞれを簡単に紹介する。

まず，文復唱テストは，その名の通り，言われた文をそのままくり返すテストである。作業自体は，教室でもやっている活動であるが，どのような文が言われるかわからない状態で，文を聞き取って，一時的に保持した上で再生するという作業は，予想以上に困難なものである。テスト項目の困難度は，主に文の長さと文構造の複雑さで決まってくる。次の例で言えば，例 3 のほうが例 1 より長い文なので困難度が高く，例 2 のほうが受動態の文であるだけ，例 1 よりは困難度が高いと想定される。

例 1
cue:　My sister was reading a book.（6語）
answer:　My sister was reading a book.

例 2
cue:　The car was cleaned last Sunday.（6 語）
answer:　The car was cleaned last Sunday.

例 3
cue:　When I came home, my sister was reading a book.（10 語）
answer:　When I came home, my sister was reading a book.

次に，口頭並べ替え問題であるが，これは 1 つの文をいくつかの単位にバラして，それらを音声で流す。受験者はそれらを聞き取って並べ替え，元の正しい語順の文にするというものである。

cue:　than yours … is longer … my pencil
answer:　My pencil is longer than yours.

これらの手法は，作成や実施が比較的容易で，LL などで一斉に行うこともできるので，実用性が高い。また，1 問ずつの実施時間が短いので，多くの問題数を確保することができる。ただし，これらのテストで高得点を取ることが，実際のスピーキングにおいてどのような能力を保証するのかは明確でない。例えば，受動態の文を繰り返して言えることや正しく並べ替えて言えることが，受動態の文を必要なときに自分で言える能力と，どの程度関連しているのかはわからない。こうした点については，今後更なる研究が必要であろう。

スピーキング・テストは，まだまだ未知の分野である。しかしながら，どのような形にせよ，やってみることに意味がある。また，上記以外に，スピーチやプレゼンテーションによるテストなどもあるが，これらについてはまた別の機会に扱うことにする。

＊ 15 分間の対面インタビューをもとに，総合的な会話能力を段階で判定するテスト。

授業レポート
CLASS REPORT

楽しくて力のつく授業［1］

―評価計画とテスト―

二宮正男　Ninomiya Masao　（東京都新宿区立西戸山中学校）

1. はじめに

「教えたことを評価する。教えていないことは評価しない。」この当たり前のことが行われていないことがある。例えば，リスニングのテストを実施するにあたって，どれだけの指導をしてからテストしているだろうか。また読解力をテストするのにどれだけの読解の攻略法を生徒に教えているだろうか。

本校では，「指導と評価」について文部科学省のフロンティア校として，また，昨年度は東京都の授業改善校として取り組んできた。その研究を踏まえて，指導と評価の在り方について実践報告したい。

2. 指導と評価

本校では，年度当初に「全教科の年間指導計画」を生徒と保護者に提示している。このことは授業を受ける生徒にとって大切なだけでなく，教師にとっても計画的に授業を進めていく上でとても重要なことである。

また，学期の最初にはその学期の評価規準を授業の中で提示して説明している〈資料 1〉。それとあわせて，何をテストして評価するかも生徒に示しておくことが大切である〈資料 2〉。そして，それぞれのテストごとに評価基準を生徒に示してからテストを実施していく。

例えば，教科書の DO IT ― TALK の対話文のスキットを【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の観点で評価する際の評価基準（A，B，C）を次のようにあらかじめ生徒に提示して，生徒が基準に到達したかどうかを自分自身で判断できるようにしている。

A: 同じテーマで独自のスキットを創作し演じる
B: 対話文の文章を入れ替えたり加えて演じる
C: 教科書の対話文をそのまま演じる

学期の終わりには，生徒に「授業アンケート」をとっている。それをまとめて授業改善に活かして「確かな学力の検証」を行っている。そして保護者にも全教科において授業改善について説明している。

3. 評価計画と指導案

（1）3 年間の到達目標から 1 時間の評価計画まで

評価計画は次のような順番で立てている。

①年間評価計画

〈資料１〉２年生１学期の評価規準（英語科）

観点	各観点の主な内容	主な評価法	評定における各観点の割合
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	**英語に親しみ，英語を使って積極的にコミュニケーションを図っている。** ・間違いを恐れずに自分の考えなどを話している。【積極性】 ・ペアワークやグループワークなどの活動に積極的に取り組んでいる。【積極性】 ・さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けている。【継続性】	Show&Tell スキット ALT とインタビュー	25%
表現の能力	**英語を使って，自分の考えや気持ちなどを話したり，書いたりして表現する。** ・本文を正しく／適切に音読することができる。【正確さ】【適切さ】 ・話そうとすることを，先生（ALT や JTE）や友だちに正確に伝えることができる。【正確さ】 ・先生（ALT や JTE）や友だちに聞かれたことに対して適切に応答することができる。【適切さ】 ・教科書で学んだ基本文を使って，自分の考えや気持ちなどを正確に書くことができる。【正確さ】	音読 スピーチ ALT とインタビュー 定期テスト（英作文）	25%
理解の能力	**英語を聞いたり，読んだりして，話し手や書き手の考えなどを理解する。** ・英語情報の大切な部分を聞き取ったり，読み取ることができる。【適切さ】 ・質問や依頼など，または伝言や手紙など，英語の指示に対して適切に応じることができる。【適切さ】	リスニングテスト 定期テスト（読解力）	25%
言語や文化についての知識・理解	**英語の学習を通して，言葉や文化などを理解し，それに関する知識を身につけている。** ・授業で学習した単語や語句や文の意味を正しく理解している。【言語】 ・授業で学習した言語の運用（文型や文法事項）についての知識を身につけている。【言語】 ・場面や状況に相応しい表現を知っている。【言語】	小テスト（単元テスト） 定期テスト	25%

ままテストをやることになってしまうので，注意が必要である。

〈資料2〉の通り，今年度の2年生には1学期の授業中に，ALTが作成した聞き取りテストをかなりの回数実施したので，期末考査では実施しなかった。また，私はペーパーテストでは【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の測定はせず，授業中にコミュニケーション活動の場面を設定して評価している。

(2)【表現の能力】の指導と評価

【表現の能力】の指導と評価について具体例をあげて説明しよう。【表現の能力】には「話すことによる表現の能力」と「読むことによる表現の能力」と「書くことによる表現の能力」の3つの内容のまとまりがある。2年生1学期に【表現の能力】の評価を出すのに，この3つの内容のまとまり全てにテストを実施して評価を出した（〈資料2〉参照）。

「話すことによる表現の能力」を測定するのにスピーチを1回，ALTとのインタビューテストを1回実施した。2年生になり，新しい友だちに自分のことを過去形も使って紹介するスピーチをテストした。練習のときには1年生のときのスピーチのビデオや，モデルとして前年の2年生が行った自己紹介のビデオを見せた。また，インタビューテストは【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】を測定するテストとしても利用することがあるが，今回はALTの質問に対して適切に応答する能力を測る【表現の能力】のテストとして行った。

「読むことによる表現の能力」を測定するのに，音読テストをそれぞれ単元が終わるごとに実施している。たかが音読と思われがちだが，音読は英語の基本である。全員の生徒が「正確」で「適切」な音読ができるように丁寧に練習している。本校は英語科と数学科は習熟度別少人数授業を取り入れているので，それを最大限に活用して個に応じた音読練習を行っている。

「書くことによる表現の能力」の測定は，期末テスト（ペーパーテスト）の中で行った。「正確さ」をテストするために日記を書かせ，「適切さ」をテストするために手紙の返事を書かせた。普段の書くことの練習は，習熟度別クラスの発展コースでは毎時間，挨拶の後日記を即興で書かせて添削する指導を行っている。基本コースでは毎時間，“帯の活動”としてディクテーションを行っている。どちらのコースも少人数であることを利用して，丁寧に生徒の書いた英文の添削を行っている。

(3) 100点満点と平均点

また評価の方法が変わってから観点別に成績を処理するので，100点満点のテストを作成する必要がなくなった。このことはすごく大事なことである。また平均点にもこだわらなくてもいいことを生徒にも徹底していきたい。

〈資料5〉に，2年生1学期のテストと成績のつけ方を示した。定期テストは，【イ：表現の能力】が30点，【ウ：理解の能力】が14点，【エ：言語や文化についての知識・理解】が17点で作られている。それぞれの観点ごとの達成率でABCの評価を出している。決して61点満点ということではない。また1学期全体をみると，4つの観点の比率は全て同じく25%にしてある。

5. おわりに

どの力をどのように評価するかが整理されていないと，いくら楽しい授業をやっても，生徒は「自分にどんな力がついて，どうやって成績がつけられているのか」がわからないまま通知表をもらうことになる。学期の最初に，〈資料2〉や〈資料3〉の全体構成が教師自身や生徒に明確になっていることが，評価の大切なポイントだと考えている。

〈資料5〉2年生1学期のテストにおける4観点の割合

		ア	イ	ウ	エ
定期テスト1回	61点		30点	14点	17点
(英作文テスト) (読解力テスト) (文型語順テスト)	(30) (14) (17)		(30)	(14)	(17)
Show&Tell 1回	15点	15点			
スキット1回	15点	15点			
インタビュー1回	25点	25点			
音読3回	15点		15点		
スピーチ1回	5点		5点		
インタビュー1回	5点		5点		
リスニングテスト4回	40点			40点	
単元テスト2回	37点				37点
	合計218点	55点	55点	54点	54点
各観点の比率		25.2%	25.2%	24.8%	24.8%
評価から仮評定のための重み付け後の各観点の比率		25%	25%	25%	25%

②学期の評価計画

③単元の評価計画

④本時（1時間）の評価計画

中学卒業時にどんな力を身につけさせたいかを考え，全体の大きな計画を立ててから，1単元，さらには1時間ごとの計画を立てている。その際には，1年間・学期の中で4つの観点をどのような場面で測定して評価するかを計画するようにしている。

(2) 具体的な指導案の書き方

多くの指導案には，単元の指導計画は書いてあっても，単元の評価について書かれていないことが多い。

例えば，1年生の三人称単数形を扱う単元を指導するとき，指導案は次のような順番に書いている。

①単元名

②単元の目標

③単元の評価規準〈資料3〉

④「指導計画（配当時間）」

ところが③の「単元の評価規準」が省かれていたり，④で「各時間ごとの評価計画」が示されていないことが多い。評価方法について，授業内でテストするのか，定期考査でテストするのかを明記することは重要である。

〈資料4〉を見ていただきたい。例えば，5時間目のセクション3の授業内で行うALTとのインタビューテストは【ウ：理解の能力】の「正確さ①」を測定し，評価して成績に反映することを表している。また，教科書の3つのセクションが終わった後，7時間目には【イ：表現の能力】の「正確さ①」を測定・評価して成績に入れるShow&Tellのテストを実施する。なお，表に評価の項目を書くときは，成績に反映させる評価をA（academic evaluation）としている。また，それとは区別して，成績にはつけないが，生徒のやる気を引き出し授業を円滑に進めるための形成評価はF（formative evaluation）とし，その場に応じて励ましやアドバイスを与えている。

4. 観点別絶対評価におけるテスト

(1) 定期テストだけがテストではない

学期ごとに，4観点別に実施するテストを整理し，だいたい1つの観点に4～5のテストを実施している。それ以上計画すると，十分な指導ができない

〈資料4〉単元の指導計画と評価計画

配当時数	§	指導内容	評価
1 2	1	三単現肯定文の導入／教科書本文の内容理解	F アの①〈観察〉 A イの①〈音読テスト〉
3 4	2	三単現疑問文の導入／教科書本文の内容理解	F アの①〈観察〉
5	3	三単現否定文の導入／教科書本文の内容理解	A ウの①〈ALTとのインタビューテスト〉
本時　6		三単現の復習／友だち紹介のShow&Tell練習	F アの①〈観察〉 F イの①〈観察〉 F イの②〈観察〉
7		まとめ／友だち紹介のShow&Tellテスト	A イの①〈Show&Tell〉
単元テスト 期末テスト		三単現（肯定文, 疑問文, 否定文）	A エの①〈単元テスト〉 A イの①〈期末テスト〉 A ウの①②〈期末テスト〉 A エの①〈期末テスト〉

〈資料2〉2年生1学期の評価計画

単元	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	Show&Tell （話すことの言語活動への取り組み）	スピーチ（正確な発話） 音読テスト（正確な音読）	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	単元テスト（言語）
2	インタビューテスト （話すことの言語活動への取り組み）	音読テスト（正確な音読）	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	
3	スキット （話すことの言語活動への取り組み）	音読テスト（正確な音読） インタビューテスト（適切な発話）	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	単元テスト（言語）
4	スキット（言語活動への取り組み） →期末後実施	音読テスト（正確な音読） →期末後実施	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	単元テスト（言語） →期末後実施
期末		英作問題（正確な筆記）（適切な筆記）	長文読解問題（適切な読み取り）	文法問題（言語）

〈資料3〉単元の評価規準

ア：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 【言語活動への取り組み】①間違いを恐れず積極的に三人称単数形を含む英文を使って友だちや家族の説明をしようとしている。
イ：表現の能力 【正確さ】①三人称単数形を用いて，正しく話したり書いたりできる。　【適切さ】②内容が相手に伝わるように，話したり書いたりできる。
ウ：理解の能力 【正確さ】①三人称単数形を含む内容を正しく理解している。　【適切さ】②三人称単数形を含む内容の必要な部分をとらえることができる。
エ：言語や文化についての知識・理解 【言語について】①三人称単数形の用法を身につけている。

小学校英語 Just Now

小学校英語活動における学級担任の役割

酒井英樹　Sakai Hideki
（信州大学）

1. はじめに

学級担任が小学校英語活動を指導することが増えているように思える。本稿では，いくつか具体例を挙げながら，学級担任の役割について述べていく。

2. 児童の理解をモニターする役割

ALT が英語で児童に話しかける場面がある。このとき，学級担任は，児童が ALT の英語を理解しているかどうかを，動作（指示通り動いていない），表情（困惑した顔をする，友だちや学級担任をちらちらとみる）やつぶやき（日本語で「え ?」とか「わかんない」と言う）から判断することが重要である。

【事例 1】 ALT がクラス全体とじゃんけんを行う場面があった。ALT は“Hands up.”と言って児童全員の手をあげさせようとしていた。このとき，手をあげていない児童の A さんがいた。学級担任の O 先生は，A さんの近くに行き，“Hands up. Hands up.”と 2 度繰り返した。“Hands up.”を“Stand up.”と理解したのか，A さんは立ちあがろうとした。O 先生は，A さんの手に触れた。A さんは，周囲を見渡してから他の児童と同じように手をあげた。じゃんけんの機会がもう一度あり，ALT が“Hands up.”と言うと即座に A さんは手をあげた。ALT が英語を話しているとき，O 先生は教室の中ほどの壁際に立っており，ALT とクラスの両方に注意を払っていた。

まず，興味深いのは学級担任の立ち位置である。O 先生は，クラスの前で ALT と並んで立っていたり，児童の中に入っていたりと，立ち位置を変えていた。ALT が英語で話すときには，O 先生は児童の理解を観察・評価できる位置に立ち，支援が必要な児童のところにすぐ移動できるようにしていた。

次に，学級担任の支援が日本語によって行われなかった点に注目したい。O 先生は，ALT の英語をそのまま繰り返す方法と，どうすればよいのかということを物理的に示す方法（児童の手に触れた）を使った。A さんは，他の児童の行動の観察と合わせて，“Hands up.”の意味を理解できたように思える。2 度目は，躊躇することなく手をあげられた。学級担任が，児童の理解に注意を払うことは特に英語活動では重要になる。英語で進められる授業では，児童も不安を感じながら，一生懸命理解しようとする。わからないことばかりだと，理解しようという努力をしなくなってしまうだろう。

3. 児童に合わせた支援を与える役割

学級担任は，児童に応じた支援もできる。事例 1 では，O 先生は日本語で説明するのではなく英語を繰り返して児童に聞かせた。次に示す事例 2 では，O 先生は日本語を使いながらも，児童に英語で言うように求めている。一方，事例 3 では，児童に，どう言えばよいかをすぐに教えてあげている。学級担任は，それぞれの児童について，どこまで学ぶことができて，どのように支援するのがよいのか，という判断をすることができる。

【事例 2】 ミッシングゲームの場面（黒板に貼られた果物のカードを数枚外し，どの果物がないのか当てさせる活動）で，児童の B さんが「梨」と日本語で答えたとき，O 先生は B さんの隣に行き，「英語で」とやわらかく指示した。すると，B さんは ALT の方を向いて，“Pear.”と答えた。

【事例 3】 ビンゴゲーム（好きな果物について友だちにインタビューして,“Yes.”という答えが得られたら，署名をしてもらう）を行っているとき，児童の D さんが O 先生のところにきて，「なんて言うの？」とインタビューの仕方を聞いた。O 先生は，“Do you like …?” と言って，質問すればよいことを教えた。

児童が ALT の英語を理解できないとき，日本語を使ってもよいか，という質問を受けることがよくある。そんなときは，英語をなんとか理解しようとする点が大切であることを強調しながらも，学級担任として一人ひとりの児童をよく観察し，理解の度合いを判断してくださいとお願いする。日本語が必要な児童もいるかもしれないし，その他の方法で英語を理解することができる児童がいるかもしれない点を指摘し，個に合った支援ができるのは学級担任であると述べることにしている。私も one-shot で英語活動をさせていただく機会があるが，個に応じた支援は不可能に近いと感じる。同様に，ALT も一人ひとりに合った指導を行うのは難しいだろう。

4. 児童のつぶやきを取り上げる役割

児童の英語力は限られている。そのため，児童は英語活動であっても，日本語でつぶやいたり発言したりすることが多い。学級担任の役割として，この児童の発言を活かすことが挙げられよう。

【事例 4】 学級担任の F 先生が単独で英語活動を行っていた。動物の絵カード（A4 サイズを横にしたもの）を見せて，“What’s this animal?” と児童に尋ねていた。キリンの絵を見せたとき，児童の E さんが，「なんでそれだけ小さいの？」と言った。F 先生は，少し考えてから，“Long neck.” と答えた。すると，別の児童の G さんが「縦にすればいいじゃん」と言った。

F 先生は英語の専門ではないが，なんとか英語を使って授業を進めようとしている熱心な先生である。事例 4 の授業中，児童は日本語でいろいろと発言していた。しかし，F 先生が児童の発言に反応することはあまりなかった。おそらく英語を使って授業を進めているため，F 先生に余裕がなかったと思われる。

この偶発的なやりとりが重要なのは，英語を習い始めた児童と英語専門ではない学級担任がことばを使って「コミュニケーション」していることを示しているからである。まず，E さんは自分の感想をことばにして表現している。その表現を F 先生は受け止めて，英語で反応している。さらに，G さんは，F 先生の片言の英語 “Long neck.” の「首が長かったから，キリン自体が小さくなってしまったんだよ」という意味をしっかりと理解している。そして，A4 サイズの紙を縦に使えば，他のカードの動物と同様の大きさで描けることを指摘している。

このような「コミュニケーション」が，次第に英語を使って行うやりとりに発展すればよい。このようなことばのやりとりをするというコミュニケーションの基本を身につけている児童は，練習して覚えた表現を，生き生きとしたことばとして使えるようになるだろう。

5. 指名する役割

指名は，学級担任の重要な役割である。ALT がクラスに質問を投げかける場合でも，学級担任が指名をしたい。理由として，（1）活発な児童ばかりが発言することを避けられること，（2）手をあげていなくても発言したいという児童の様子を学級担任が把握できること，（3）他の科目の授業の発言ルールを適用できること（クラスによっては，多くの人の参加を求めるために発言の回数に制限を設けていることもある）などが挙げられる。学級担任が，一人ひとりの名前を呼ぶことで，児童の参加を活発にすることもできる。ALT が全員の名前を覚えて名前で呼びかけることは難しい。また，学級担任が発言した児童をほめることも容易になる。

6. おわりに

私が今まで行ってきた授業観察を基にして，学級担任の役割を紹介してきた。特に ALT や英語専科の教員が担いづらいと思われる役割を中心に，学級担任の役割のいくつかを紹介してきた。

Writing Instruction

Ron Martin
(IEC, Waseda University)

Writing is difficult, and it is a process. Writing is not an easy skill to learn. Writing cannot be learned (or taught!) in just one class. Writing is necessary. Writing is something we all do everyday. Writing is a way to express ideas, to show creativity and especially to convey information. Too often students are asked to copy a textbook example and only change a few words. This is NOT writing. Writing in a foreign language can be taught, yet in order to teach writing, there are three things teachers need to think about: Aim; Audience; and Discourse Type (Genre).

Aim

This is the ***purpose*** of the writing. All writing has a purpose. When we write a shopping list (bread, milk, eggs), our aim is "not to forget" any of the items. When we write a letter to a friend, our aim is to "share our life". There is always an aim. Therefore, especially for junior high school students, there ***must*** be a very clear aim. The aim should NEVER only be "for the teacher to correct and give a score"!

Audience

This is ***who*** will read the writing. In the case of a shopping list, is the reader your husband, wife, son or daughter? Or is the reader yourself? In the case of a letter, maybe the reader is your friend. There is always an audience. Again, the audience ***must*** also be clear, and I suggest the audience should NOT be oneself. Our students should write to be read by another. If so, they will take more care in what they do, and they will focus on communicating.

Discourse Type (Genre)

This is the type of writing. There are many types of writing. For example, there are letters, lists, e-mails, postcards, advertisements, stories, reports, and diaries. Yet when is the last time you wrote a poem, a newspaper story, a movie review or a song?

What we have to understand is that ***experience*** plays an important role in being able to write in different genres. Our students have limited overall writing experience even in Japanese. In a foreign language, students should understand the discourse type (its aim and audience) in their own language before trying to understand it in their foreign language. Understanding a discourse type includes the culture of writing, namely organization and format. All must be taught.

After you choose the Aim, Audience and Discourse Type, you are ready to begin.

1. Basic Writing Activities
   - Fill in the blanks
   - Re-ordering
   - Substitution
   - Correct the facts
   - Correct the mistakes
   - Topic-based free writing
   - Dialog journals
2. Pre-writing
   - List topic vocabulary
   - Make an outline
   - Discuss the Discourse Type
3. While-writing
   - Write without stopping
   - Use correct Discourse Type structure
   - Draft writing (write and re-write)
   - Draft checking (peer and teacher)
   - Do not "correct" drafts. Highlight mistakes for students to correct.
   - Final writing
4. Post-writing
   - Students respond to another student's writing. Remember "Audience".
   - Post and/or publish your students writing at school. This will generate more interest in writing for the writer and the audience.
5. Evaluation
   - Tell students beforehand about the evaluation points.
   - Evaluate the whole process—**NOT** just the final assignment.
   - Evaluate content and grammar.
   - Praise what was done well. Show what needs to be improved.
   - Perhaps focus only on communication. Could the contents be fully understood? If so, full marks could be awarded.

Writing should be a collaborative effort. Have students work together on writing tasks. They will co-teach and co-learn together.

音声再生ソフト Windows Media® Player 10 を活用しよう

田中武夫　Tanaka Takeo
（山梨大学）

Windows, Windows Media および Windows ロゴは米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

今回，私が紹介するのは，CD プレーヤー代わりに使える音声再生ソフト Windows Media® Player 10（以下, WMP10）です。パソコンがインターネットと接続可能であれば，次のサイトから WMP10 を無料ダウンロードして使うことができます。

パソコンに詳しくない私でも，操作が簡単ですのでお薦めです。現在，リスニングの授業で WMP10 を使っています。教科書付属のテープや CD がありますが，テープだと巻き戻しや早送りに時間がかかったり，CD だと頭出しに手間取ったりと不便なことが多かったので，この WMP10 を使ってみることしました。使い勝手がよくテープや CD の諸問題も解決しました。

使用方法としては，再生したい CD をパソコンに挿入し,「取り込み」で取り込みたいファイル（音声テキストや曲）を指定して，パソコン内のライブラリーにファイルとして取り込みます。ファイルに情報を追加でき，自分の好きな順にしたり，自由にファイリングし直したりすることも可能です。ただし，パソコンの性能によっては，取り込みに時間がかかる可能性がありますので注意が必要です。もちろん，ファイルとして取り込まなくても，CD をパソコンに挿入したまま使用することもできます。しかし，ファイルとして取り込むと，以下に紹介する最初の 2 つの機能が可能になります。

WMP10 の特長は以下の通りです。第 1 に，再生速度の調節が可能であることです。スクリーン右下のボタンに，1.4 倍速，2 倍速，5 倍速があり，簡単に再生速度を変えることができます。逆に，メニューの再生ボタンから，再生速度を遅くすることも可能です。

第 2 に，複数の音声テキストを何度もリピートさせることができます。CD では，一つのセクションをリピートさせることはできますが，WMP10 であれば，複数のファイルを選択し，選択したファイルを何度でもリピートさせることができます。

第 3 に，音声テキストを好きな位置から再生することができます。テープや CD では，音声テキストの好きなところから再生したくても，なかなかストップできず，もどかしく感じることがよくあります。しかし，この WMP10 だと，下方にある位置スライダーと呼ばれるポインターで，ファイル中の好きな位置を指定すれば，そこからいつでもすぐに再生してくれます。他にも便利な機能がありそうですが，私が使いこなして利便性を感じているのは以上の機能です。

パソコンが相手ですから授業で使用する場合，次のような問題もあります。ノートパソコンには，教室に十分なだけの音量が出せるスピーカーがついていないため，アンプつきのスピーカーが必要になります。最近では安価な小型スピーカーが出回っています。また，音声ファイルを扱いますので，性能の良くないパソコンの場合，動作が遅い可能性も考えられます。本格的に活用する前に，いくつかの音声テキストで実際に試してみるとよいでしょう。

頻繁に音声テキストを扱う英語教師にとって，この WMP10 には利点が多いはずです。リスニング指導で音声テキストを自動的に繰り返し何度も生徒に聞かせたい，発音指導などで短めの音声テキストをたくさん扱いたい，CD やテープのためのスペースが少なくパソコンの中に管理しておきたい，あるいは，授業外で，英語の音声ファイルを使って教師自身が自分のリスニング力を鍛えたい，などのときに，今回紹介した WMP10 はお薦めです。なお，言うまでもありませんが，著作権保護には十分気をつけてご活用下さい。

TEACHING ENGLISH NOW 通信

お知らせ

NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition（平成 19 年度用）修正箇所のお知らせ

来年度（平成19年度用）の教科書から以下の箇所を修正いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

□ BOOK 2

ページ	行	修正箇所	修正内容
12	WORDS	web インターネット上の	web（インターネットの）ウェブ
20	2 の表のイラスト	Sydney 雪のマーク（雪だるま） New York 雨のマーク（傘）	Sydney 雨のマーク（傘） New York 雪のマーク（雪だるま）
106	14	got(ten)	got / gotten
107	10	waken	woken

□ BOOK 3

ページ	行	修正箇所	修正内容
113	20	wake（目が覚める）wake(s) woke (waked) woken (woke/waked) waking	囲み部分を削除

近刊（2007 年春刊行）のお知らせ

コミュニカティブ・テスティングへの挑戦
リスニングテスト CD 付き

根岸雅史・東京都中学校英語教育研究会［編著］

予価 2,520 円（本体 2,400 円＋税） B5 判・予 160 ページ

授業がコミュニカティブになったら，テストもコミュニカティブに！ コミュニカティブ・テスティングでは，現実の言語コミュニケーションの場面をテストの中で再現することで，より正確な言語運用能力を測ることができるようになる。本書では，東京都中学校英語教育研究会の 10 年間の実践研究を紹介しながら，リスニング，リーディング，ライティング，文法・語彙，スピーキングのテストの作成・実施方法を紹介。

— 目 次 —

Ⅰ コミュニカティブ・テスティング以前
Ⅱ コミュニカティブ・テスティングとは？
Ⅲ コミュニカティブ・テスティングの実際
Ⅳ スピーキングのテストの実際
Ⅴ 英語の定期試験作成のポイント
Ⅵ 中英研コミュニケーションテストの分析結果

（目次は変更することもあります。）

がんばろう！イングリッシュ・ティーチャーズ！
自主研修ハンドブック

田邉祐司・松畑熙一・服部孝彦・坂本万里・Charles Browne ［編著］

予価 1,995 円（本体 1,900 円＋税） A5 判・予 176 ページ

英語教師としての力量を高めるには，どうしたらいいだろう？ その疑問に答えるため，自主研修の基本的な考え方や方法を解説し，がんばっている現役の先生たちの実践例や生の声を多数紹介。さらに，読者が第一歩を踏み出すための具体的なリソースも収録。「英語力」と「授業力」の両面を高めるための「英語教師必携」の書，ついに登場！

—主な内容—

■自主研修の基本的な考え方
■「英語運用能力」と「英語教授力」
■先輩ティーチャーたちの実践報告
■自主研修の Plan，Do，See
■自主研修のためのブック＆ウェブサイトガイド
■さらなる学びのために—教育大学院情報

研究会・セミナー情報

NPO 法人言語教育文化研究所（ILEC）主催 平成 19 年度前期英語専門研修講座のご案内（第 1 次）

日 時：5月連休明け～6月下旬（火・木）19時～21時
場 所：当研究所セミナールーム（三省堂本社1階）
内 容：毎日の英語授業の改善・創造を目指し，現在英語教育界で活躍している講師陣が明日からの授業に役立つ講義と実習を行います。
対 象：小中高の先生方，学生，一般の方
参加費：1講座につき3,000円を予定しています。
お問い合せ：言教研事務局 TEL 03-3230-9473
＊講座の詳細についてはホームページで順次ご案内いく予定です。
http://www.ilec.jp/

TEACHING ENGLISH NOW
8 号
2007 年 2 月 14 日発行
定価 80 円（本体 76 円）

編集・発行人：八幡統厚
発行所：株式会社三省堂
〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14
電話（03）3230-9422（編集）
振替 東京 00160-5-54300
［NEW CROWN ホームページ］
http://tb.sanseido.co.jp/newcrown/index.html
印刷：三省堂印刷株式会社
〒192-0032 東京都八王子市石川町 2951-9
電話（0426）45-6111（代）

編集後記

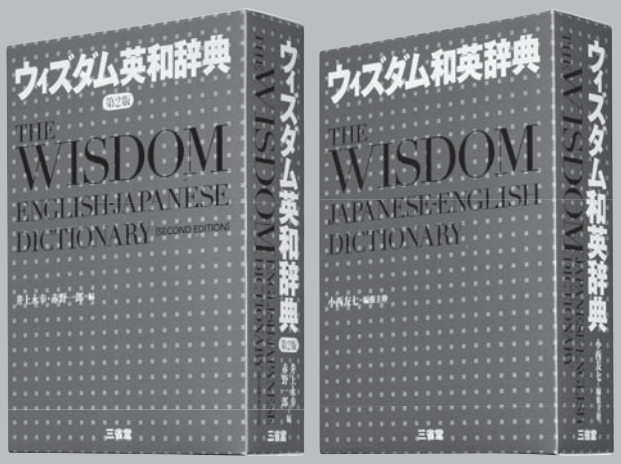
本誌以外にも Web にて、英語教育に関する情報を提供しています。英語教科書・教育情報サイト SANSEIDO ENGLISH（http://tb.sanseido.co.jp/english/index.html）には,英語教科書・教材や英語教育関連書籍についての情報，英語教育に関するコラムや研究会情報など、役立つ情報を多数掲載しています。

デザイン：牧野剛士（株式会社マキノプロダクション）・橋本竜志

語法に強い，現代英語に強い
学習英和・和英の最高峰

ウィズダム
WISDOM

英和・和英同時新発売



ウィズダム英和辞典 第2版

井上永幸・赤野一郎 編
定価3,465円（本体3,300円＋税）　B6変型判2,144頁

- ●より使いやすく，より的確に――最新の成果を取り入れた全面改訂版
- ●コーパス分析を深化させ，現代英語の実勢を反映した語法，用例，語釈
- ●各種新機軸コラムで，学習・受験のあらゆる場面をサポート

ウィズダム和英辞典

小西友七 編修主幹
定価3,465円（本体3,300円＋税）　B6変型判2,112頁

- ●自然な日本語を自然な英語へ豊富な用例，充実の語法解説
- ●ディスコース重視――まとまった文章を書く際に必要な情報を満載
- ●日本人のこころを映し出す日本の名作の翻訳例も多数紹介

21世紀初　一冊もの［国語＋百科］
日本語の現在を映す　驚異の23万8千項目

ミリオンセラーの11年ぶりの全面改訂

大辞林
第3版

松村 明［編］

B5変型判　特価7,665円（本体7,300円＋税）　※2007年5月末日まで
定価8,190円（本体7,800円＋税）

1つの辞書で2つの引き方が可能

三省堂デュアル・ディクショナリー

URL: http://www.dual-d.net/

辞書をご購入いただいた方に,ウェブ上で,大辞林とウィズダム英和・和英のそれぞれの検索サービスをご利用いただけます。紙の辞書の一覧性・視認性と,電子辞書の検索速度・柔軟性を兼ね備えた「新しい辞書のかたち」を提案します。

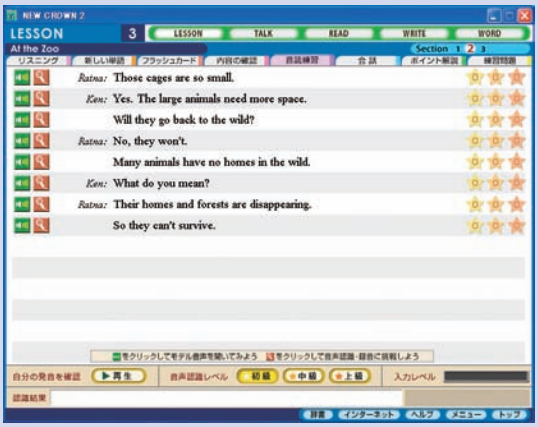
ニュークラウンのコンピュータソフト教材〈指導用教材〉

音声認識機能搭載

NEW CROWN 英語学習CD-ROM 1 2 3

音声認識機能を使ってコミュニケーションの基礎力を伸ばせます！

本ソフトは，NEW CROWN の教科書コンテンツと音声認識技術を統合し，音声面を中心に基礎・基本の徹底とオーラルコミュニケーション能力のさらなる向上を図ることができるものです。教科書本文の音声を聞いて，それを繰り返し発話することで，教科書の内容を着実に身につけながら，音声面の基礎力を伸ばしていくことができます。音読練習としても非常に効果的です。また，教科書の内容理解や文型・文法学習の機能も搭載されています。



- Windows 版
- 各学年 CD-ROM 1 枚　定価 10,290 円（本体 9,800 円＋税）
- 各学年にお得なパックあり
  - ●11 枚パック　定価 89,250 円（本体 85,000 円＋税）
  - ●21 枚パック　定価 157,500 円（本体 150,000 円＋税）

推奨の動作環境

OS：Windows XP（推奨），Windows 2000（推奨）
CPU：Intel Pentium III 600MHz 以上（推奨）
メモリ：128MB 以上の RAM（256MB 以上を推奨）
ハードディスク：空き容量 650MB 以上
モニター：1,024×768 ピクセル，16bit 以上を表示可能なカラーモニター
CD-ROM ドライブ：16 倍速以上
サウンドボード：16bitPCM サウンドカード必須
インターネットブラウザ：Microsoft Internet Explorer 6 sp1〈日本語版〉以上（最新バージョンを推奨）
マイク：パーソナルコンピュータ用のマイク

一斉授業向け

三省堂デジタルテキスト 1 2 3

授業を効率よく進められます！

本ソフトは，NEW CROWN の教科書に完全準拠した指導用のパソコンソフトです。プロジェクターや大型モニターを使った一斉授業に適しています。教科書本文の音声を聞いて，それを繰り返し発話することで，教科書内容を着実に身に着けながら，音声面の基礎力を伸ばしていくことできます。音読練習としても非常に効果的です。

- **本文や新出単語の音声など音声 CD の機能と，フラッシュカードの機能を 1 つにまとめました。**
- **大画面を見ながらの音読，プログラム再生やランダム再生，リピートなど，生徒の集中力を高めながら授業の効率化が図れます。**

- Windows 版
- 各学年 CD-ROM 1 枚　定価 52,500 円（本体 50,000 円＋税）
- 学校フリーライセンス　■ 電子情報ボード対応

推奨の動作環境

OS：Windows XP（推奨），Windows 2000（推奨）
CPU：Intel Pentium III 600MHz 以上（推奨）
メモリ：256MB 以上の RAM（512MB 以上を推奨）
ハードディスク：空き容量 1GB 以上
モニター：1,024×768 ピクセル，16bit 以上を表示可能なカラーモニター
CD-ROM ドライブ：16 倍速以上
サウンドボード：16bitPCM サウンドカード必須
インターネットブラウザ：Microsoft Internet Explorer 6 sp1〈日本語版〉以上（最新バージョンを推奨）

三省堂
http://www.sanseido.co.jp/

□本　社　〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14　TEL. 03（3230）9411（編集案内）・9551（営業）
TEL. 03（3230）9422（英語教科書編集部）
□大阪支社　〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地 2-5-3　TEL. 06（6341）2177
□名古屋支社　〒460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F　TEL. 052（252）9211・9212
□九州支社　〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1　TEL. 092（531）1531・1532
□札幌営業所　〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ノヴァ 15 ビル 2F　TEL. 011（616）8722